

# 障害当事者による横断歩道&歩道の改善に関する意見

私は車いすを利用して日常生活を送っておりますが、地域の横断歩道や歩道には、移動の安全性と、自立した外出を妨げる課題が数多く残されています。

また、これらの問題は障害者だけでなく、高齢者、ベビーカー利用者、杖歩行の方など、多くの住民に共通するものであり、以下、当事者としての実感と改善へのご提案をまとめます。

---

## 1. スムーズ横断歩道の課題

近年、路面を盛り上げた『スムーズ横断歩道』が整備されつつあります。

これは、走行している車両から横断歩道の視認性が向上し、減速させるメリットがありますが、

■車いすでも通しやすい構造になっていて、歩道と車道の段差を限りなくゼロに近づけている。

■横断歩道上の平坦部分をできるだけ2mほど確保して、車いすやベビーカー同士がすれ違っても勾配側に落ちないように工夫がされている。

など、「歩行者優先」という重要な点からも、しっかり検討され、評価できると思います。

一方で、このような配慮が基準と示されているものの、すべての横断歩道で実施できるわけではなく、更なる対応が必要ではないでしょうか。

---

## 2. 横断歩道の塗装の滑りやすさ

横断歩道の白線部分は、雨天時に特に滑りやすくなります。

これは、一般の歩行者にも共通する課題ですが、車いすユーザーや高齢者、ベビーカー利用者にとっては、転倒や操作不能に直結する重大な問題であり、近年、滑りにくい塗装技術も進んでいることから、さらなる改善と普及を強く望みます。

---

### 3. 歩道上の障害物による危険

歩道には、看板や植木、自転車やバイク、車両の前部のはみ出しなど、通行を妨げる障害物が多数存在します。

これらは、車いすユーザーや高齢者、視覚障害者にとって極めて危険で、避けるために車道に出ざるを得ない場面もあり、当事者にとっては日常的な命の危険に直結する重要な課題であることから、警察や交通安全関係者の皆様から地元自治体へ働きかけていただけましたら幸いです。

※私が住む自治体もこの問題は把握しており、広報誌で注意喚起をしたことはあるが、効果はさほど無く、積極的な対策が必要と感じる。

---

### 4. これら以外に、障害者、高齢者、ベビーカーの方が日々感じている切実な状況

#### 1. 横断歩道周辺で直面している危険

- ・歩道と車道の段差が高く、前輪が引っかかる。
- ・すりつけ勾配が急で、車いすが後ろに倒れそうになる。
- ・横断歩道の平坦部分が狭く、車いすやベビーカーが勾配側に流される。
- ・側溝付近の路面がえぐれ、実質的な段差になっている箇所が多い。
- ・中央分離帯がある交差点では、切り下げが不十分だったり、避難場所が狭かったり、信号が赤色になってしまうなど、交通量の多い道路では命の危険を感じる時もある。
- ・青信号の時間が短く、渡りきれないことがある。
- ・逆の赤信号で止まっている自転車が進路を防ぐことが多く、標識で注意できないか。

#### 2. 歩道で感じている不安と負担

- ・歩道幅が狭く、歩行者とのすれ違いが困難なことも多い。
- ・切り下げ勾配が大きく、車いすが横に流される。
- ・舗装の継ぎ目や段差が多く、振動が身体に直接響いて辛く、外出意欲も低下する。
- ・点字ブロックが途切れていたり誤配置され、視覚障害者と車いすの双方に危険。
- ・夜間は照明不足で段差が見えず、転倒リスクが高まる。

このように、車いすユーザーや身体が不自由な方、高齢者、ベビーカー利用者にとっては横断歩道も歩道も問題が多くありますが、  
インフラ整備と身体が不自由な方の共存は難しい課題であり、  
設計段階から多様な利用者の視点を取り入れるなど、今以上に両者が協力しながら改善策を模索することで、より安全で快適な横断&歩道環境の実現が可能になると考えます。

## 別途：『RESPECT THE LAW38』 イベント動画からの感想

(1) 『金賞・三福運輸株式会社様』のドラレコ映像では、

雪の中で三福運輸様の車両が横断歩道を渡ろうとする子どもに気が付き、その手前で一時停止するにもかかわらず、対向車は、そのまま通過する場面がありました。対向車の運転者が子どもに気付かなかったのかは分かりませんが、もし、子どもが停止した車だけを見て横断歩道に飛び出したら（渡り始めたら）完全にはねてしまって重大事故につながったのではないのでしょうか。

もともとは、走行している車両が横断歩道の手前で一時停止する映像ですが、このように、横断歩道で車が止まるのを待っている歩行者と、それを無視して突っ込む車を見せると事故を起こす危険性を想像させることができ、それも横断歩道の一時停止や交通事故撲滅への啓発に非常に有効かも知れません。

(2) 後藤様が紹介されておられました警察庁のホームページは、交通安全に関する有意義な情報が多く掲載されているにもかかわらず、一般にはあまり知られていない印象があり、私どもの今後の活動において、このような情報の周知・PRにも力を入れていくべきと感じました。

以上、安心して外出できる環境は誰にとっても必要な生活基盤ですので、関係者の皆様には一層のご理解とご協力をお願いさせていただくとともに、  
もちろん私どももがんばります！

一般社団法人共生プロジェクト  
井口 渉